

学びのキャンパス推進事業における行動計画 【概要版】

令和5年3月

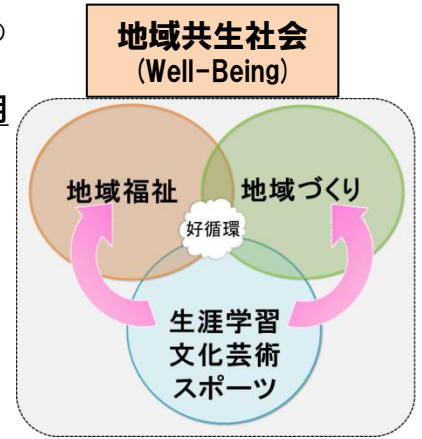
東広島市教育委員会

1 概要

令和2年3月に策定した第五次東広島市総合計画においては、まちづくり大綱「人づくり」の施策の1つに、市民が主体となった学習活動が活発になるよう、『市全体が「学びのキャンパス」となる環境づくり』を掲げている。

この施策は、令和元年9月に策定した「東広島市生涯学習推進計画」の基本目標でもある。

この生涯学習の推進のための、**既存の公共施設などの資源を有効に活用した行動計画の策定等に取り組む。**



図「まなきゃん」の基本方針

2 将来像（戦略目標）

「学びと実践の好循環」

3 実現のための行動目標の範囲

生涯学習の概念は、幅広い。

近年は、人生100年時代やSociety5.0などの社会経済環境の変化を背景に、社会人が学び直しを行う「リカレント教育」や、職業の変化に対応するために新たなスキルを身に付ける「リスキリング」など、仕事を目的とした学びも増えている。

本行動計画は、このように広範囲に及ぶ生涯学習の中で、趣味や身近な教養、生きがいなど市民が豊かな人生を送るための学びを、主として行政が推進する生涯学習の分野に関わる施策を対象とし、仕事のためを主とするリカレント教育やリスキリング、また、職業訓練や民間の主催する学習と連携を図り、学びを推進する。

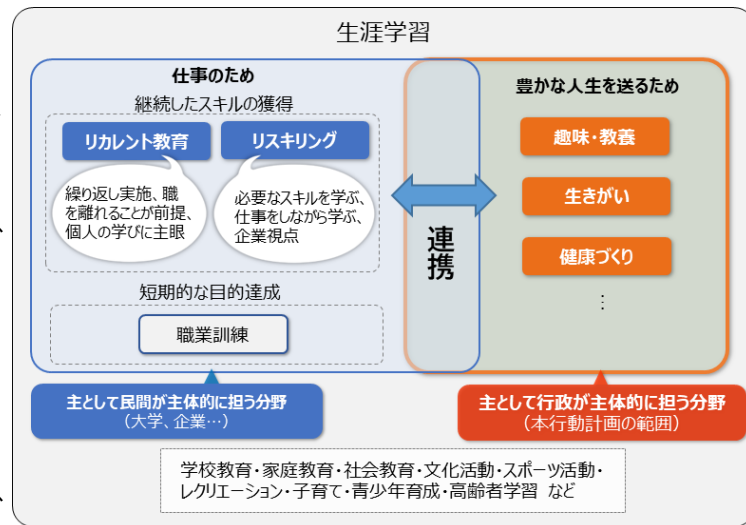
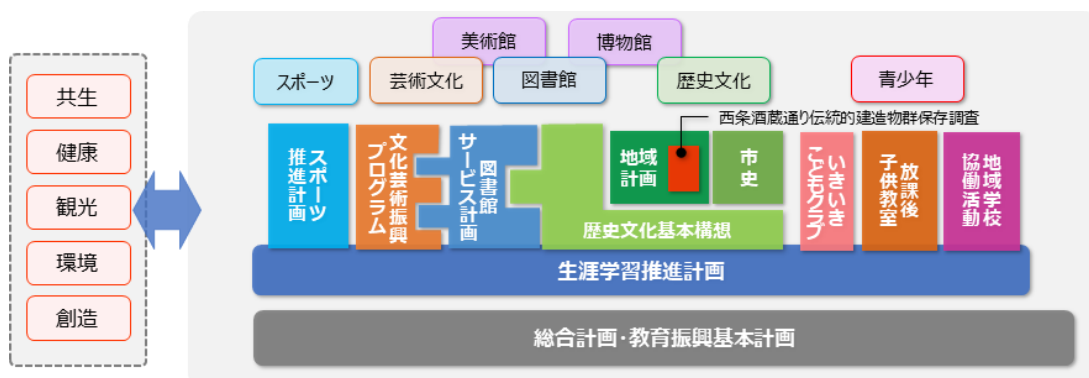


図 生涯学習の概念

4 学びのキャンパス推進事業（通称「まなきゃん」）の概要

区分	行動計画	具体的取り組み（パイロット事業を含む）
(1)環境づくり	施設の特徴化・聖地化	地区の特徴を踏まえた公共施設の利活用・整備 ホール施設、図書館・博物館、スポーツ施設等
(2)推進の場	地域センターに加え 学校を核とした学びの場	青少年による放課後の児童の活動
(3)支援戦略	弱点分野・戦略分野	講座運営における 弱点分野の対策と戦略分野の重点化
(4)専門体制	教育文化振興事業団 の体制強化	部門（学び・スポーツ・文化財・芸術・〔国際化〕）



図「まなきゃん」の関連図

5 戦略

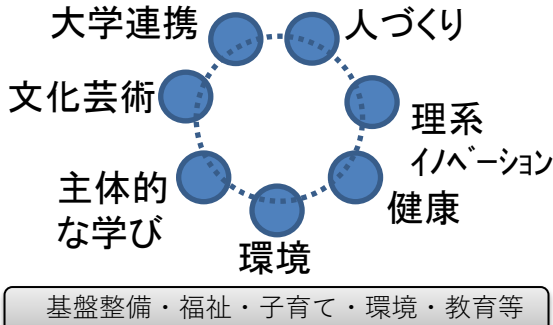
(1) まなびの講座の戦略

7つの戦略

- ◎人権教育
- ◎地域づくり
- ◎地域共生
- ◎趣味・レクリエーション

など、これまで行ってきた各部局との連携による基本的な講座に加え戦略的講座分野を策定。

7つの戦略
様々な部局の連携



(2) まなびの世代戦略

強化すべき世代

人生100年時代		学びの主催者
高齢期 (65歳)		健康福祉部門
壮年期 (25歳)	大学生	青少年の生涯学習
青年期 (15歳)	高校生	
少年期	中学生	
	小学生	
幼年期 (5歳)	未就学児	子育て部門
(0歳)		

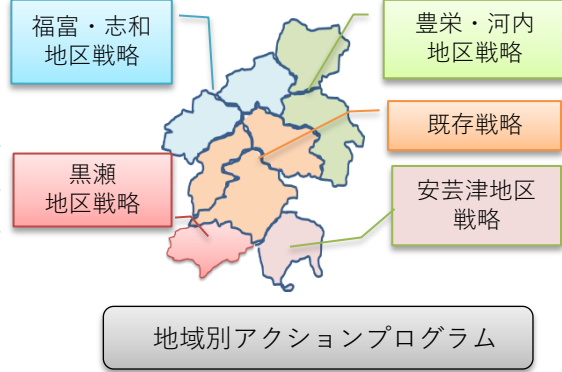
異年齢交流・生き力



※「部活の地域移行にも対応」

(3) まなびの地域戦略

特徴化



生涯学習施設の特徴化
公共施設総合管理計画

- ① ホール
- ② 図書館
- ③ 博物館
- ④ スポーツ施設

※「特徴化の概要」参照

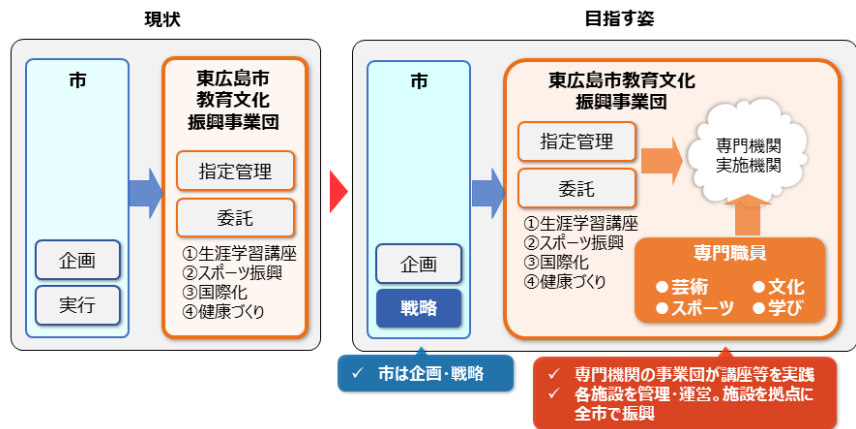
教育文化振興事業団の体制強化(マネジメント力)

6 事業団強化

※「事業団強化の概要」参照

「学び・文化活動」「スポーツ活動」「造形芸術」「歴史・文化財」の各部門ごとの経営・マネジメント体制を強化するため、部門ごとに専門職員を配置し、各事業の実施や市民による活動の支援を行う。部門ごとの具体的な専門職員配置の考え方は右表のとおり。

また、生涯学習活動の振興は、これまで本市が企画・実行し、一部を東広島市教育文化振興事業団が指定管理や委託業務として実施しているが、今後は、本市の企画・戦略に基づき、同事業団が「学びの専門機関・実施機関」として、各施設の管理運営から生涯学習活動の振興までを総括的に実行することを目指す。



7 実施スケジュール

学びのキャンパス推進事業の実施スケジュールは右のとおり。

	令和4年度	事業着手初年度	事業着手2年目
学び スポーツ 文化財 芸術	アンケート調査 ヒアリング調査 ↓ 行動計画策定	施設特化化着手 体制強化策策定 学芸員先行採用	施設特化化・支援戦略推進 体制強化

特徴化の概要

① 劇場型ホール

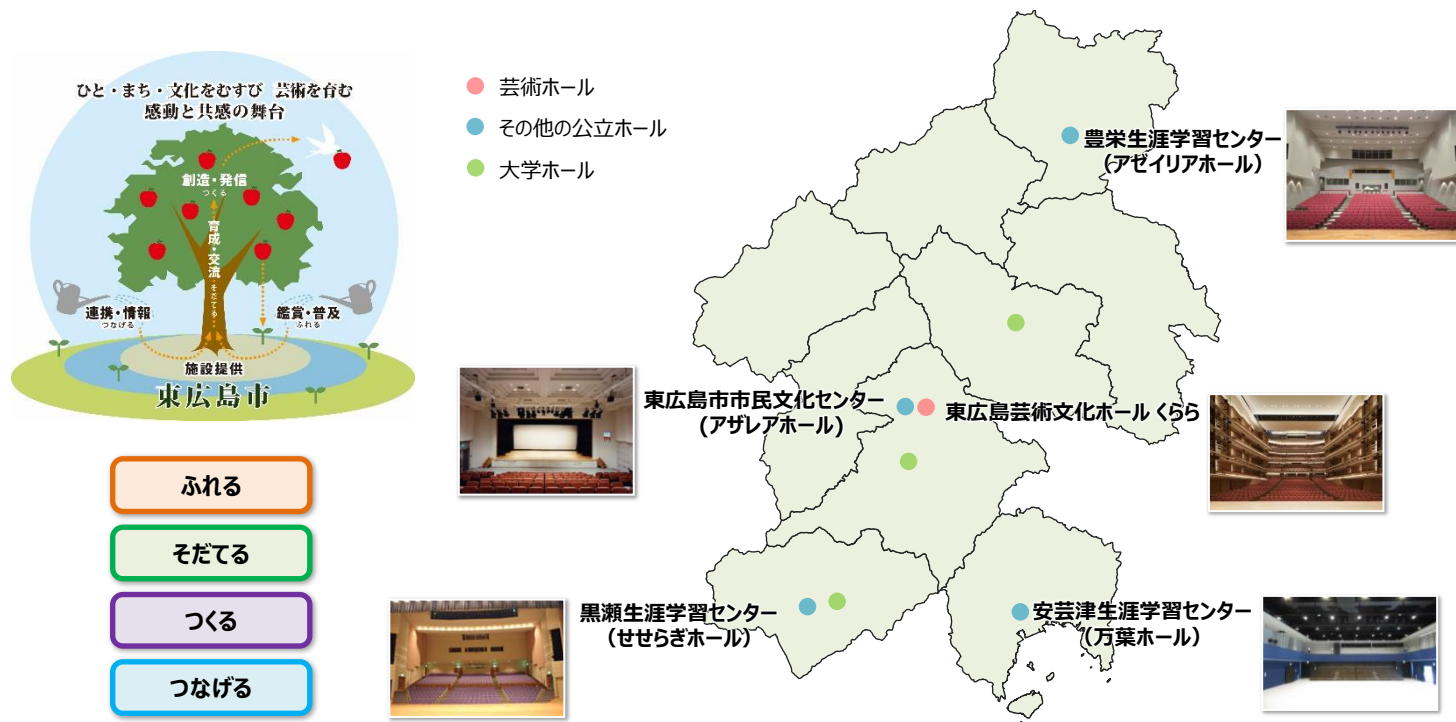
ひと・まち・文化をむすび 芸術を育む 感動と共感の舞台

東広島市には、活動の発表拠点となる芸術ホールが、8つある。

このうち、公立ホールは5つ、大学のホールが3つとなっており、市民が自由に利用できる5つの公立ホールについて、その特徴化を図り、利活用を推進する。

利活用に際しては、全ての芸術活動の拠点となり、高度な芸術鑑賞から市民利用までを担う「東広島芸術文化ホールくらら」の拠点性の位置づけを再確認し、他の4ホールの位置づけを整理する。

なお、各地域の地域センターのホールは劇場型ホールではないため、個別の特徴化に関する記載はしないが、学びや地域活動の拠点として活用する。



	市民文化センター	黒瀬生涯学習センター	豊栄生涯学習センター	安芸津生涯学習センター
ふれる	<ul style="list-style-type: none"> 和文化に触れる体験プログラム 地域で活動するアーティストの公演 	<ul style="list-style-type: none"> 舞台芸術作品や地域で活動するアーティストの公演 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の芸術文化活動を相互発表するイベント 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の芸術文化活動を相互発表するイベント
そだてる	<ul style="list-style-type: none"> 和文化に関する講演会やワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> 本格的なホール設備を活用したワークショップ 	<ul style="list-style-type: none"> ホール設備を活用したアーティスト等による音楽や演劇の育成プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> 文化連盟の活動への支援
つくる	<ul style="list-style-type: none"> ベシユタインを活用したピアノ体験や講座 	<ul style="list-style-type: none"> スタインウェイを活用したピアノ体験や講座 市民が出演者やスタッフとして参加するミュージカル作品の創作、上演 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が出演者やスタッフとして参加するミュージカル作品の創作、上演 	<ul style="list-style-type: none"> 劇団活動や和歌、酒造りの表現など、地域に根付いた活動
つなげる	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流イベントや青少年を対象としたイベント 	<ul style="list-style-type: none"> DXを活用し、施設を基点に集会所などをつなくオンライン講座 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の輪が広がるような地域イベント 	<ul style="list-style-type: none"> 文化活動を通じて地域の輪が広がるようなイベント
施設提供	<ul style="list-style-type: none"> 商業イベントなどへのホール貸出 	<ul style="list-style-type: none"> 芸術イベントへのホール貸出 	<ul style="list-style-type: none"> 本格的なリハーサル等の準備活動へのホール貸出 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の文化活動へのホール貸出

② 図書館

『つながり紡（つむ）ぎだす図書館へ』

◆図書館の特徴化

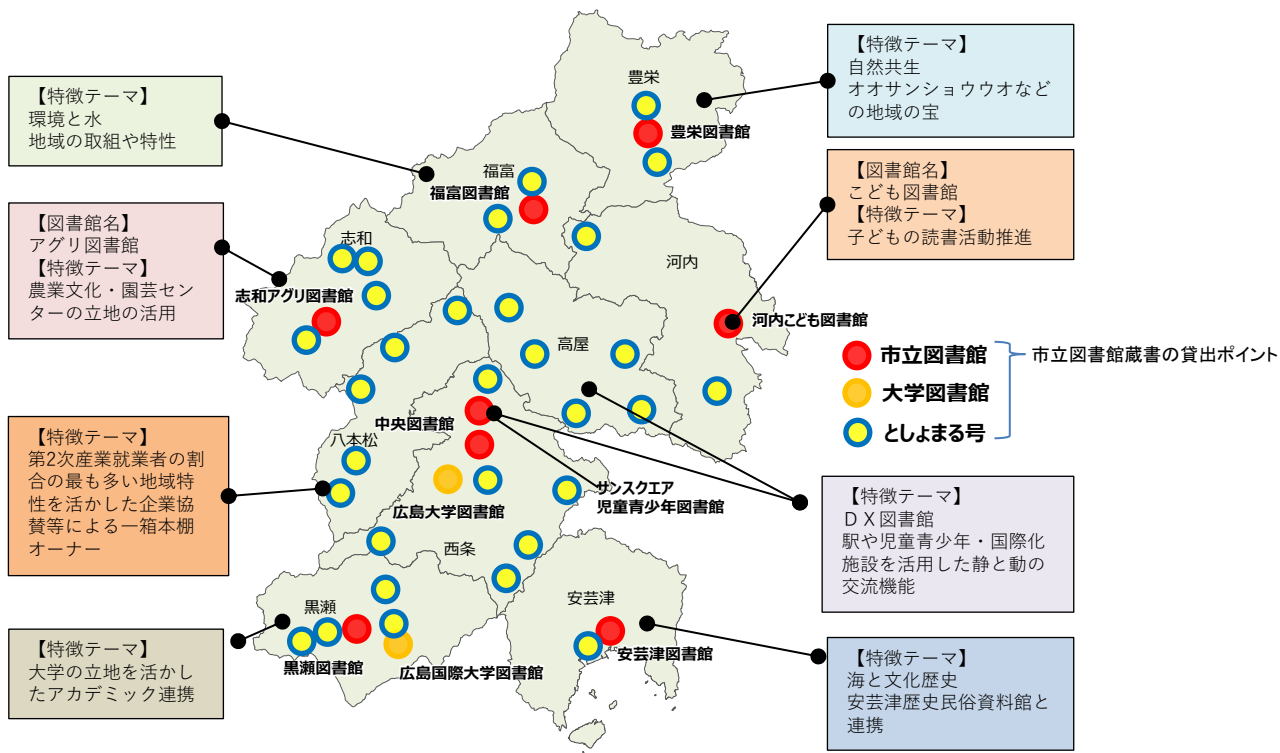
- ▶ 既存の図書館（固定館）は、地域住民にとって憩いの場となり利便性が高まる機能を整備する。
- ▶ 地域館としての基本的機能の整備に加え、各地区の地域館を特徴化する。特徴化に際しては、各地域の知的資源の特色や特性、地域文化を活かした地域情報の発信を重視することで、地域外からの交流も促進する。
- ▶ 予約資料受取ロッカーなどのICT機器を活用したサービスの提供を進める。
- ▶ 電子書籍のコンテンツの充実や図書館の電子化を促進する。DX図書館として学生が多い西条と高屋に紙と電子のハイブリッド型の情報ラウンジを設置する。

役立つ図書館

つながる図書館

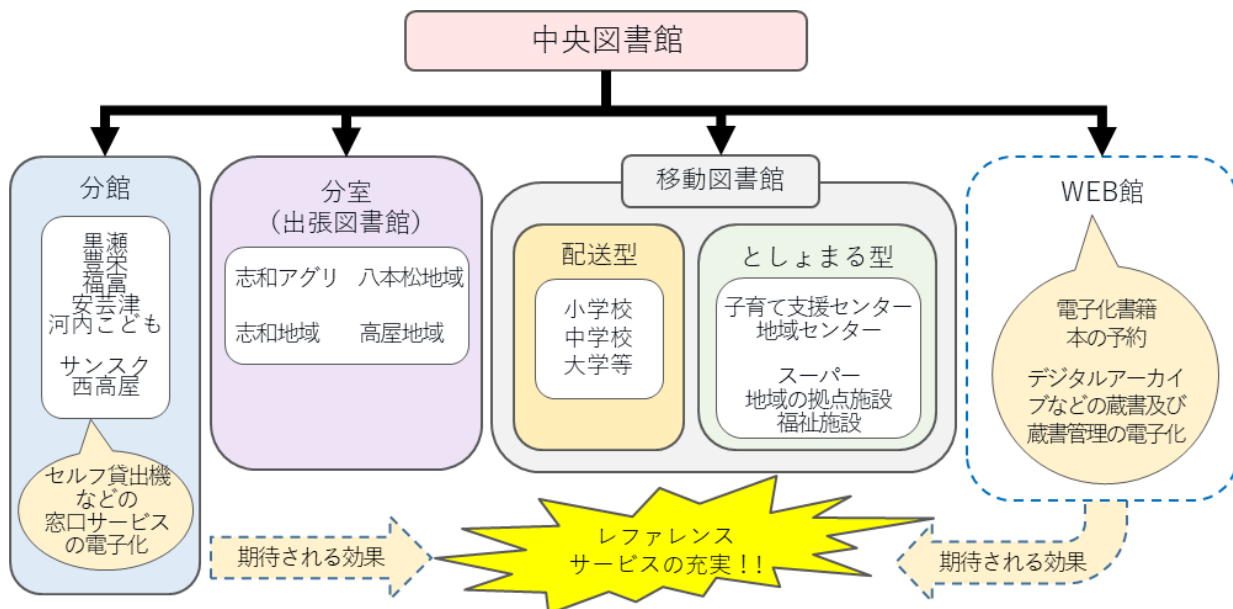
はぐくむ図書館

地域の図書館



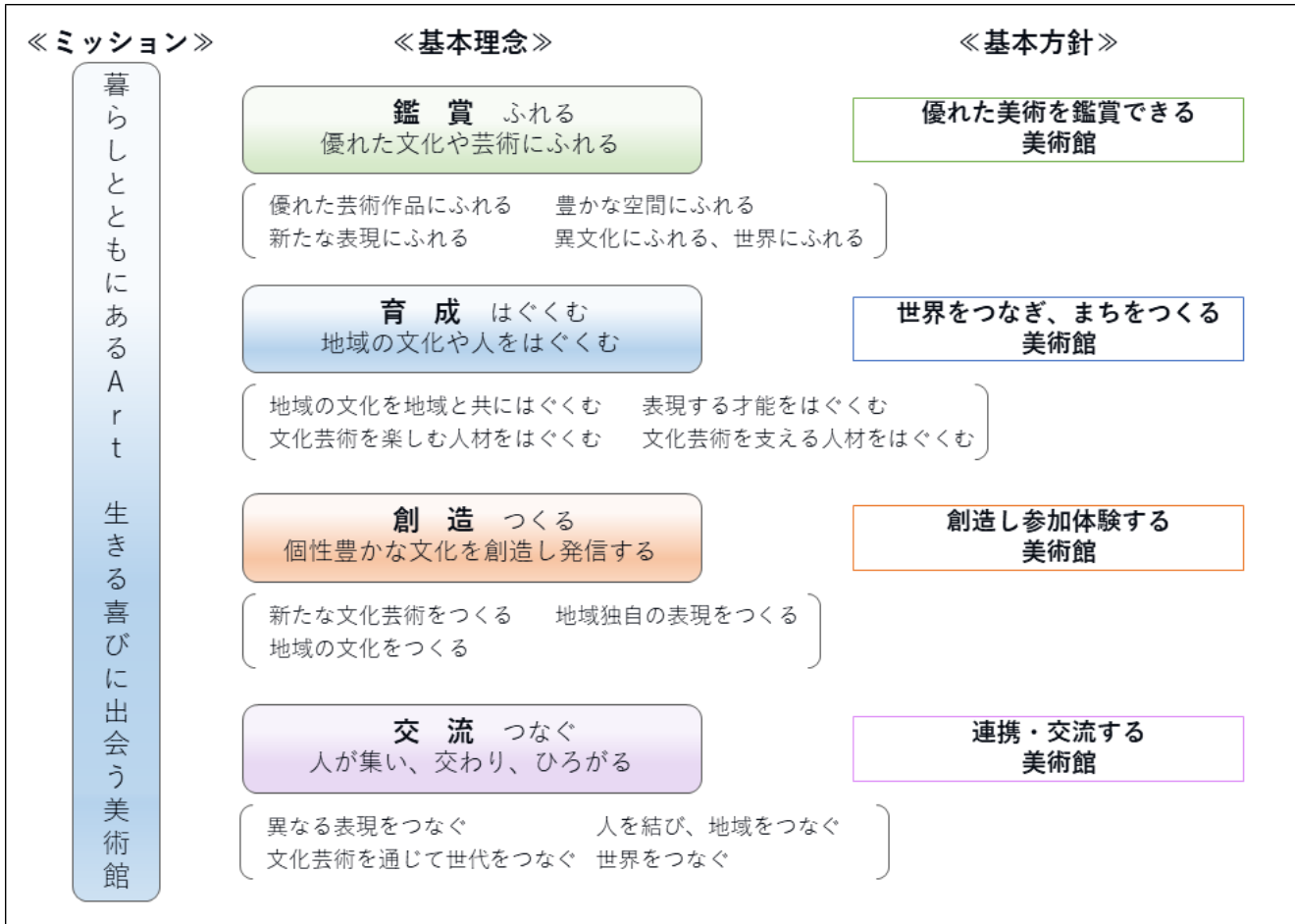
◆組織機構の強化

- ▶ 管理運営は指定管理方式とし、図書館の本分であるレファレンスサービスを充実させるため、下図の体制を整える。



③ 博物館

◎美術館の4つの基本方針



地区	図書館	特徴	拡充	連携先
西条	中央図書館	拠点図書館 オールマイティ	三ッ城公園と一体的な子育て機能 広島大学との連携	博物館 美術館
	サンスクエア児童 青少年図書館	DX図書館 児童青少年・国際化施設と 連携した交流機能	DXによる効率化・ラウンジ化 周辺機関との連携	中部/郷土史 ※統括的情報発信機能の検討
八本松	出張型図書館 八本松複合施設 地域センター	施設ロビー等を活用した 一箱本棚オーナー制度 (企業寄附の書棚)	八本松地区の地域センターを連携し た図書機能	広大博物館 広大天文台
志和	アグリ図書館 (園芸センター)	農業文化、園芸センターの 立地の活用	ルーラル電子図書館(農業専用図 書)閲覧	
高屋	ラウンジ型図書館 (西高屋駅)	DX図書館 青少年ビジネスマンの利用 24時間型予約貸出	DXの活用・ラウンジ+多様な活動 近畿大学等との連携 高屋出張所災害時拠点	仙石庭園 北部/自然史
黒瀬	黒瀬図書館	大学の立地を活かしたアカ デミック連携	ネット講座のパイロット事業	
福富	福富図書館	環境と水 地域の取組や特性	新文化財センターと連携した展示・ 活動	新文化財 センター
豊栄	豊栄図書館	自然共生 オオサンショウウオなどの 地域の宝	サテライト博物館と連携した展示・ 活動	広大博物館 サテライト館
河内	河内こども図書館	こども図書館	子どもの読書活動推進者育成	
安芸津	安芸津図書館	海と文化歴史	安芸津歴史民俗資料館と連携した展 示・活動	南部/海文化 安芸津歴史民俗資料館

➤ 3つのゾーン内での連携を深めながら、全市的な交流へ拡大していくものである。

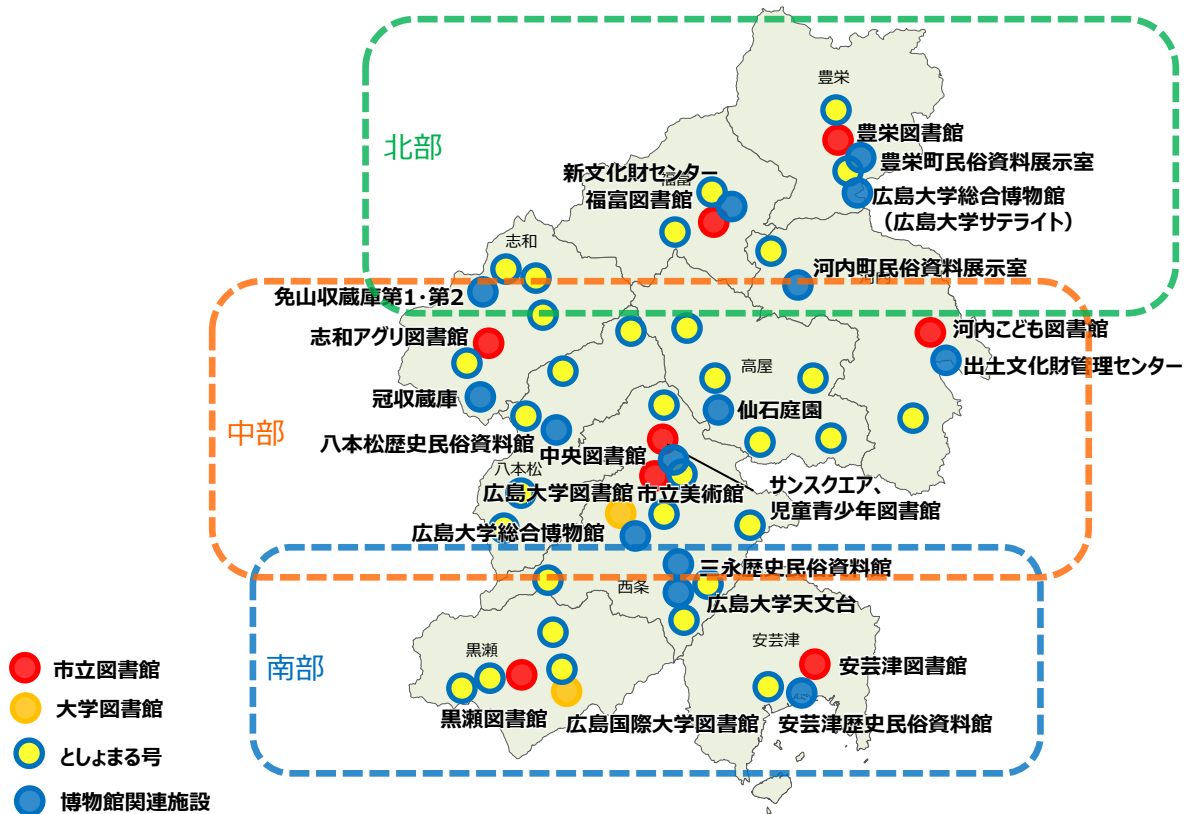
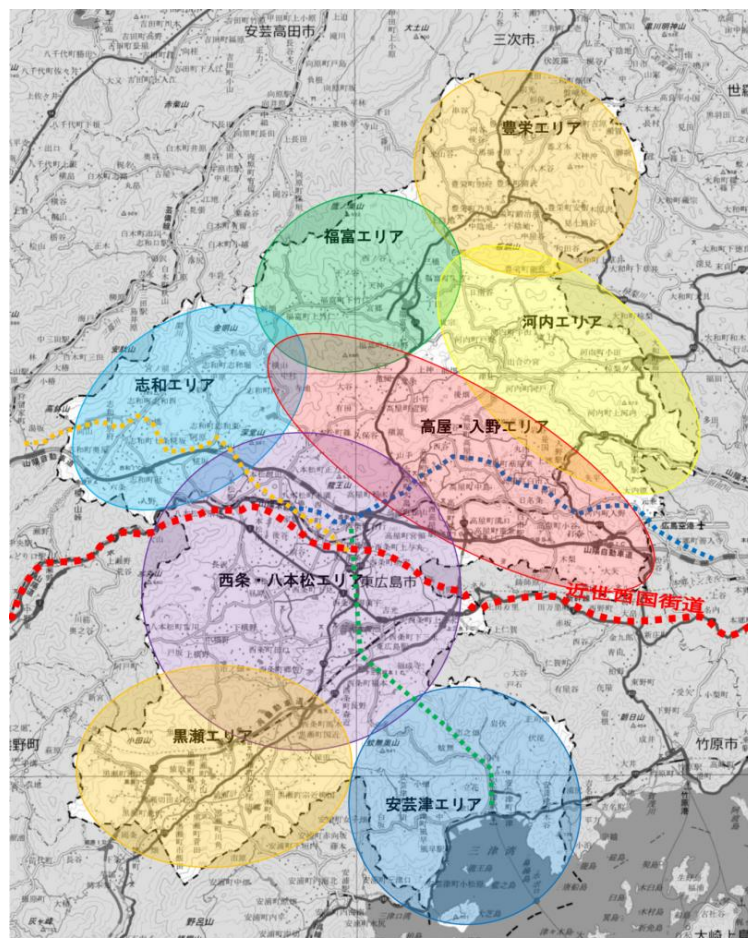


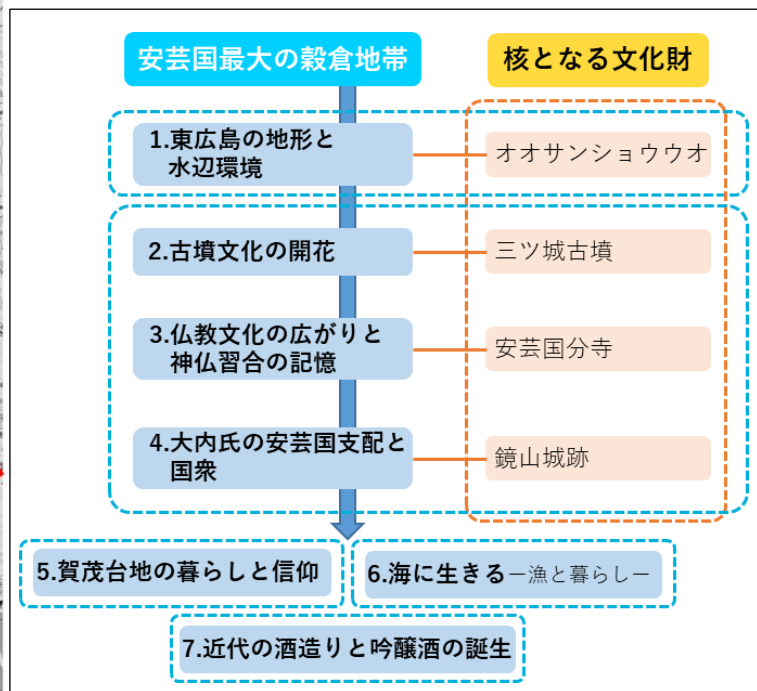
図 図書館と博物館の連携イメージ



●●●● 近世西国街道
 ●●●● 賀茂大道（「福成寺縁起」より）
 ●●●● 応安 4(1371)年、今川了俊が九州下向に際して通った道（「道ゆきぶり」より）
 ●●●● 天正 3(1575)年、島津家久が伊勢参りに際して通った道（「家久君上京日記」より）
 ※上記 2 者は、いずれも西条からは近世西国街道とほぼ重なる

図 歴史文化保存活用区域の設定

◎ 郷土史(歴史民俗)の7つの基本特性



④ スポーツ施設

◎ **基本理念** スポーツで地域を創るまち東広島

◎ **取組の4つの方向性**

方向性1 いつでもスポーツ

- スポーツ行事等の開催
- ライフスタイルに応じたスポーツの促進
- 健康目標を踏まえたスポーツの促進

方向性2 どこでもスポーツ

- スポーツ施設等の維持・整備
- 学校体育施設等の利用促進
- 指導者等の育成・支援
- スポーツに関する情報の提供

方向性3 だれでもスポーツ

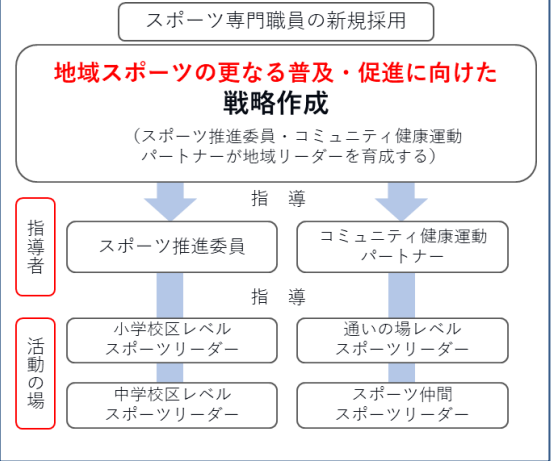
- 幼児期から運動・スポーツの推進
- 競技スポーツの振興
- 高齢者の運動習慣づくり
- 障害のある人のスポーツ促進
- ライフステージにあわせたスポーツの促進

方向性4 地域でスポーツ

- 地域団体等への支援
- スポーツボランティア活動の推進
- スポーツによる交流の推進

◆ 地域のスポーツ振興

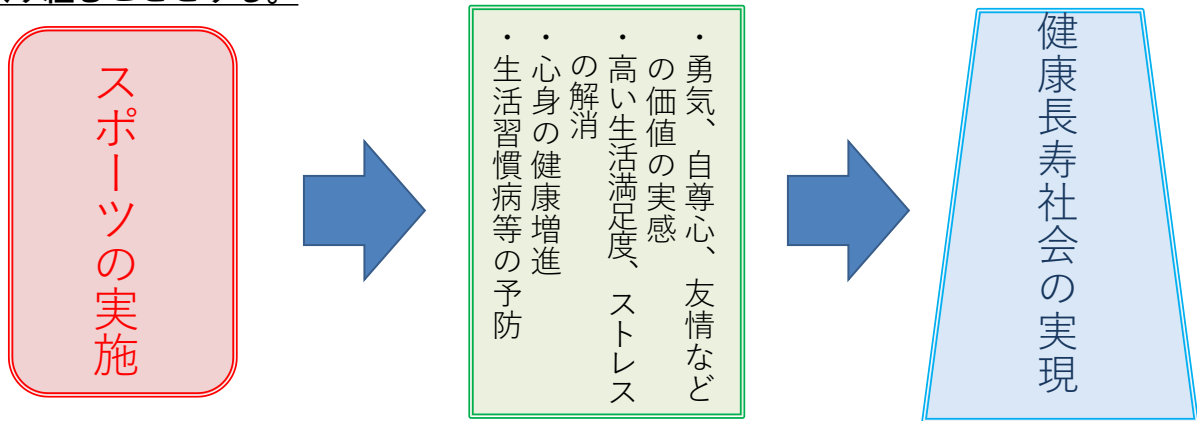
- 地域のスポーツ施設を特徴化・聖地化し、その活用を図るとともに、健康づくりの重点施策のウォーキングを中心に体力測定と健康指導を推進する。



【健康づくりとスポーツ活動】

従前のスポーツ振興は、競技スポーツの振興が主であった。

現在は、競技スポーツに加え、健康体操やウォーキング、ニュースポーツなど健康の保持増進も含めた生涯スポーツもスポーツ振興の範囲となっている。また、健康づくりを進めるために、地域におけるスポーツの振興が不可欠であり、それによりスポーツの裾野を広げていくこととする。スポーツの裾野を広げるためにはスポーツに興味を持ってもらうことが必要で、スポーツの魅力づくりも大切である。健康づくりの戦略は、「スポーツの魅力づくり」と「地域単位のスポーツの普及促進」の両面から取り組むこととする。



【施設の特徴化・聖地化とウォーキングやニュースポーツの推進】

生涯スポーツ振興のため、◎施設の特徴化・聖地化 ◎重点的健康づくり(ウォーキングやニュースポーツ)

ウォーキングによる健康づくり

ニュースポーツ、パラスポーツ等による健康づくり

“歩いて楽しいまち”、名所史跡巡りや大学連携などで、“健康と教養のまち”

“だれでもスポーツ”

健康づくり
(健康福祉部)

スポーツ振興
(生涯学習部)

施設(道路・公園)所管課

楽しんで健康づくり

いつでも、どこでも、だれでも、
地域でできるスポーツ

A モデルウォーキング
コースの設置

B 小学校区ウォーキング
コースの設置

ニュースポーツ

- ・ペタンク
- ・ラジボール卓球
- ・グラウンド・ゴルフ

パラスポーツ

- ・ブラインドスポーツ
- ・デフスポーツ
- (スペシャルオリンピックス)
- ・ユニファイドスポーツ®

オリンピック
新種目
(アーバンスポーツ)

- ・スケートボード
- ・スポーツクライミング
- ・フライングディスク

施設の特徴化・聖地化

◆既存施設の特徴化・聖地化

- 既存施設を、特定の競技に特徴化・聖地化する。
- 特徴化・聖地化する施設については、そのスポーツに必要な専用器具や備品を配備するとともに、大会開催時の事前予約を可能とするなどのインセンティブを与える。

◆廃校施設の活用

- 公共施設利活用推進検討委員会等の庁内審議において、市が保有する未利用資産はコスト等を踏まえ、利用に供することができる期間を限度に、最大限活用することとし、廃校となった体育館の利活用については、特定の競技に関して市民全体が専有的に利用できるものは、特徴化・聖地化が可能となるものとし、下表のとおり、施設を特徴化・聖地化することとした。

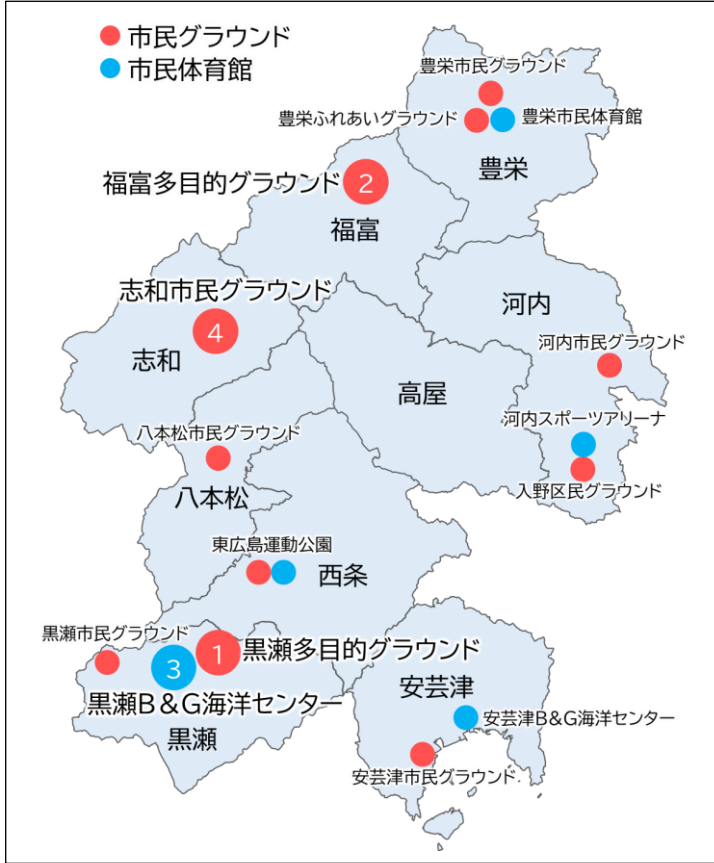


図 市民グラウンド、市民体育館配置図

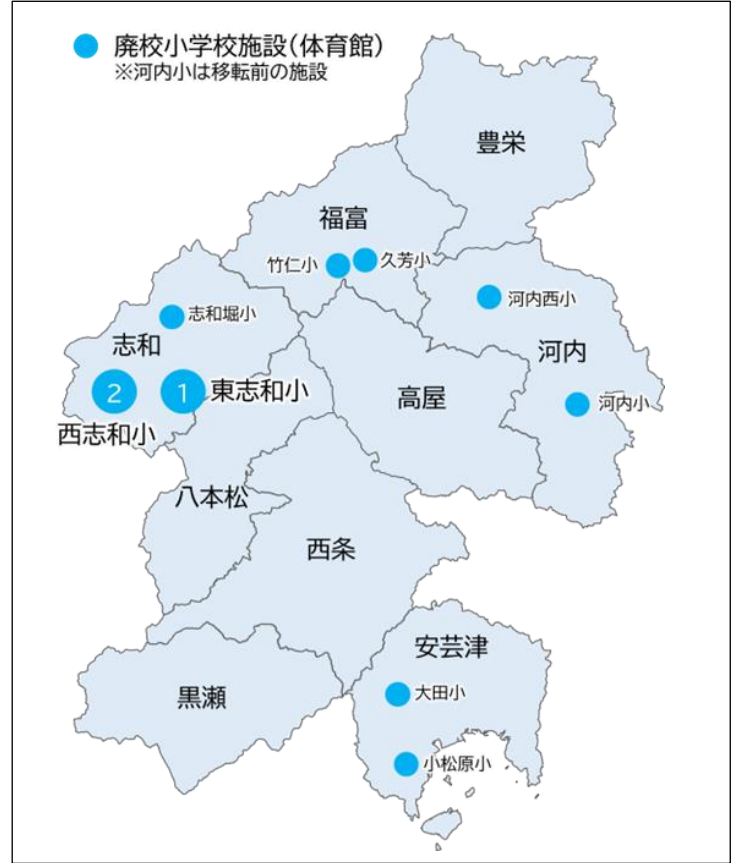


図 廃校小学校配置図

第1段階の検討結果

対象施設	施設概要	特定スポーツ等
①黒瀬多目的グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> ➢多目的グラウンド ・サッカー (2面) ・ソフトボール (2面) ・グラウンドゴルフ (3面) 	サッカー
②福富多目的グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> ➢A球場、B球場 ・軟式野球 (1面) ・ソフトボール (5面) ・サッカー (2面) ・少年サッカー (3面) 	ソフトボール
③黒瀬B&G海洋センター	<ul style="list-style-type: none"> ➢体育館 ・バレーボール (2面) ・バスケットボール (1面) ・バドミントン (3面) ・フットサル (1面) ➢黒瀬屋内プール (併設) (25m温水プール、幼児用プール、トレーニングルーム) 	体力・運動能力測定
④志和市民グラウンド	<ul style="list-style-type: none"> ➢野球場 (1面) ➢サブグラウンド (1面) 	野球

対象施設	特定スポーツ	特徴化・聖地化の理由
①旧東志和小学校体育館	ペタンク	<ul style="list-style-type: none"> ・東志和小学校閉校に伴い、地域交流や活性化を目的としてペタンク大会を実施している。 ・自治協では、志和地域全体で、市内におけるペタンクのトップランナーを目指している。
②旧西志和小学校体育館	卓球	<ul style="list-style-type: none"> ・卓球が盛んな八本松地区に近い。 ・志和インターチェンジが近くにあり、交通の利便性が良く、大会誘致につながる。

※全国大会への出場が多く、専用施設の少ない「柔道」「剣道」「レスリング」などは、特徴化・聖地化により、基本量を敷き、他のスポーツ時に畳を片付けるなどの利用も検討していく。

※今後、他の廃校施設・既存施設についても、特徴化・聖地化の検討を行う。

「事業団強化の概要」

生涯学習の長期的・継続的振興のための体制強化方針

「学び・文化活動」「スポーツ活動」「造形芸術」「歴史・文化財」の各部門ごとの経営・マネジメント体制を強化するため、部門ごとに専門職員を配置し、各事業の実施や市民による活動の支援を行う。部門ごとの具体的な専門職員配置の考え方は下表のとおり。

また、生涯学習活動の振興は、これまで本市が企画・実行し、一部を東広島市教育文化振興事業団が指定管理や委託業務として実施しているが、今後は、本市の企画・戦略に基づき、同事業団が「学びの専門機関・実施機関」として、各施設の管理運営から生涯学習活動の振興までを総括的に実行することを目指す。

部門	学びのキャンパスの推進方針	事業団の体制強化方針
(1) 学び・文化活動	生涯学習センターの自主事業を強化する。専門職員を事業団に配置し、伴走型で地域の学びを支援する。	部門ごとの経営・マネジメント体制を強化する
(2) スポーツ活動	スポーツ施設を特徴化・聖地化する。地域の健康づくりに戦略を立てる専門職員を事業団に配置する。	
(3) 造形芸術	学芸員が、レベルが高い展覧会を企画し、事業団が市民の育成創造にも取り組む。	
(4) 歴史・文化財	新文化財センターの整備などにより、市史・郷土資料の公開を強化。	
		<ul style="list-style-type: none"> 現在の生涯学習推進員は施設管理と学びの支援を兼務しているため、指定管理化により、施設管理職員及び学びの支援専門員を専任で配置する。 事業団にスポーツ専門職員を継続性を持って雇用し、専門職員が地域スポーツ普及促進に向けた戦略を立てる。 スポーツ推進委員等がその戦略に基づき、地域のスポーツリーダーを育成する。 現在の市の任期付き学芸員を事業団のプロパー職員とする。 寄贈・購入にも対応するため増員し、長期的継続的に取り組む。 文化財の保存管理や発掘に習熟した学術専門職員の採用を事業団で実施する。 公開施設の紹介・相談に対応する。

スケジュール

学びを支える体制の強化に向けたスケジュールは、以下の通り想定する。

	令和4年度	事業着手初年度	事業着手2年目	将来
全体	調査・行動計画策定			
学び・文化活動	特徴化調査	配置方針検討	生涯学習センターの新たな管理運営体制 生涯学習推進員の伴走型配置	
スポーツ活動	施設特徴化・聖地化調査	スポーツ専門職員配置準備	スポーツ専門職員の戦略的配置	
造形芸術	学芸員配置準備	学芸員を配置 (R5.4.1～)		
歴史・文化財	埋蔵文化財体制検討	学術専門職員配置準備	学術専門職員配置	公開館のレファレンス配置
国際化	国際化プラン実施体制の検討	学びのキャンパスの事業団強化策との連携		